〔東京家政大学研究紀要　第41集　(1), p. 63～74, 2001〕

ことばの獲得初期における音楽的表現
―あそびの中に見られるうたの始まり―

小野　明美

(平成12年10月5日受理)

Musical Expression at the Beginning of Infant Language Acquisition
―Rudimentary Singing which Appears in Children's Play―

Akemi ONO

(Received on October 5, 2000)

キーワード：うたの始まり，ことばの獲得，相互作用，幼児，共感
Key words：rudimentary singing, language acqusiition, reciprocal action, iInfant, sympathy

1．はじめに

日常の保育の中で子ども達を見ていると，泣き声からクーイング，喃語から日本語の音韻体型を持った日本語へと進んでいく過程で，喃語をしゃべり始めたばかりの7ヶ月前後の乳児が，手足を弓なりにそらせて「アウ！アウ！アウ！アウ！」とリズミカルに身体を揺らしながら声を出して楽しんでいる．

また，1歳前後の子ども達が気に入ったオモチャを見つけて真剣な表情で遊びに熱中しながら，鼻歌というほどでもないながら，かすかに声を出してリズムを刻んでいたり，生活や遊びのいろいろな場面で，リズミカルに身体を動かし一人で，あるいは仲間とともにイメージの世界を楽しんでいる姿をよく目にする．

そこで日頃目にしている子ども達の姿から，うたやことばの芽生えを統合的な視座に立ち，保育士である筆者と研究者〈注1〉とが協力して同じテーマを別の視点から検討してみることにした．

2．研究の目的

言葉や歌を習得しつつある4名の1歳児を対象に『ことばの獲得とうたの始まり』を探り，保育場面における音楽的発達、特にうたの始まりに着目して、ことばの獲得初期にある『子供同士のかかわりの中に見られる「うた」や「ことば」の現れ方』を明らかにすることを目的とした．

3．研究の方法

3－1　期間

1999年4月～12月

3－2　対象

東京家政大学ナースリールーム（産休明けから3才未満児の保育室）に在籍する1歳児4名（表1）

3－3　方法

表1　対象児

対象児	生年月日	入室年齢	家族構成(1999年11月)	歩行開始
E児(女)	1997年 7月25日	生後8ヶ月	父.母	1才
Y児(男)	1997年 8月 3日	1才8ヶ月	父.母.兄(4才)弟(10ヶ月)	1才2ヶ月
R児(男)	1997年 9月26日	1才6ヶ月	父.母.姉(4才)	1才3ヶ月
T児(男)	1997年 12月11日	生後3ヶ月	父.母	1才

① 個人記録・保育日誌・連絡帳より，言語発達・運動発達・音楽的発達に関する記録より抽出

② 保育室内に設置した、VTR録画
(ほぼ毎日1～2時間録画)収録した記録をことば、動き、うた、に分類集計し、同時に取った観察メモより検討した。E児は、うたの出現が1998年度なので個人記録などより抽出した．

児童学科・ナースリールーム

表2　観察開始時の子どもの様子

対象児	4月当初の状況
E児	1才8ヶ月
ことば	入室した2人の名前を直ぐに覚えて名前で呼ぶ。「赤ちゃんネンネしちゃった」等、三語文を話すようになる。
うた	遊びの中で「ぞーさん」「犬のお巡りさん」など簡単な歌を良く歌っている。音楽に合わせて踊ったり楽器を鳴らして良く遊びリズムの乗りが良い。
生活	自我がはっきりしていて納得できないと怒る。2人が入室し、オモチャを巡ってのトラブルなど、当初とまどいが見られた。
運動	とても活発で身のこなしが軽やか、三輪車やブランコを1人で乗りこなす。
Y児	4月6日　新入室・1才8ヶ月
ことば	一語文を話す。ことばの数は少ないが、保育士の話を良く聴いて理解する。「ウッウッ」と盛んに質問する。
うた	保育士の歌やCDの曲がかかると、スイングして踊ったり、拍手などして楽しむ。
生活	三人兄弟であるが落ち着いている。気にいらないことは「ヤダ！」とはっきり自己主張する。仲間が好きで抱き合うなど親愛の情を示す。 床に光が当たっているのに気付いて手を当てたり敷石の揺れに気付いて立ち止まったり、感性豊か。
運動	歩行は安定している。駆ける、よじ登るなど慎重にこなす。用心深く慎重で無理をしない。
R児	4月12日　新入室・1才6ヶ月
ことば	「ママー」「マンマ」の二語のみで他は「アー!」「ウオー!」「アッアッ」など大きな声で表現する。保育士のことばは理解する。
生活	保育士が歌うと直ぐにスイングが始まる。リズムの乗りがとても良く「ウッウッ」もう1回と盛んに催促する。
運動	入室前は、姉と家の中での遊びが中心で、砂場なども初めて体験する。 とても朗らかでニコニコ良く笑い、仲間や年長児から慕われる。
	入室当初は歩行が安定せず良く転んだが、2週間位すると安定し脚力がつく。高いところによじ登るのを好む。
T児	1才3ヶ月
ことば	「マンマー」「ママー」「ブーブー」程度の初語を話す。
うた	保育士が歌うと、とても喜び足踏みをしたりくるくる回ったりして踊る。 バスの歌にあわせて拍手する。
生活	新入室児が加わったことや、遊び空間の変化などで、登園の時に泣きが見られたが、日増しにY児R児との遊びが活発になる。
運動	フラフラとした歩き方で転ぶことも多いが、良く歩く。駆けたり、あとずさりなどをし始める。

4．ことばの獲得及びうたの始まり

4－1　観察開始時の子どもの様子

調査対象4名のうちE児，T児は前年度4月に入室し1年間ナースリーでの生活を体験している．本研究にあたり，4月に新入室したY児，R児を含めた観察開始時の子どもの様子をことば、うた、生活，運動面から抽出しまとめた．（表2）

4－2　ことばのあらわれ方

ことばを話すことと歌をうたうことはともに音声によ

表3　ことばの出現状況

対象児	ことばの出現状況
E児 (1才 1ヶ月)	8/26.「イター、イター」「ハーイ、ハーイ」8/27.「バー、イター」「ホラー・・・ダ」と、文章のように話すことがある。8/31. 遊びながら「アルロー」「ベレロレ」等しゃべっている。9/1. ビーチボールを「バーン」と言って投げる。 9/2.「ヨイショ、ヨイショ」「アッター、ハイッター」名前を呼ばれると「ハイ」と答える。9/3.「センセー」「パッパー」「アダダダダーダ」「チューアテーア」 9/11. 茶碗を取られそうになり「イヤー」皿を渡して「ハーイ」「モニカー」「アベチャー」9/21.「ゾウ」9/23.「キイン」「キティ」
Y児 (1才 8ヶ月)	4/6.（2日目）保育士が訪ねることに対し「ウンウン」と頷く。 4/8. 車を連結させながら「ブーブー」4/9.「ワンワン」「ニャーニャー」 人形の耳を指し「ミミ」4/11.「ヤダーヤダー」「ネンネ」 4/12.「ウッウッ」(何とたずねる)4/20.「オカワリ」「スプーン」
R児 (1才11 ヶ月)	8/27.「ダー」(だめ)「ヤー」(いや)8/31.「ビー」(ビデオ)「ミッキー」「ミニー」「ガーガーガー」(ドナルド)9/3. 手を叩く「タータ」本を見ながら「ポッポー」「バアーバーバー」「ンマー」(くま)みんなでポン「ポーン」、「マンマ」 レゴの車を押して「ガー」「ドバー」「ベブー」「グー」「アオー」(アオ)「バアーバアーイ」(バイバーイ)「バーウエーバアー」「ピーグーエー」 9/6.「パパパパ、パパ」「ダダーダー」9/7.「カーカーカー」(かんかんかん)「タンターイ」(カンパーイ)9/8.「ムー」(飲む)「ボブ」(ぼく)「ネー」(ないねー)「モー」(自分も)9/9.「アーム、アーム」「バババー」 9/10. フライパンをかぶり「オワー、オー」「ゴーゴー」(ごろごろ)「オーオーオー」「オー」「オー」オーを長くのばす。ガタガターンを真似て「ダダー、ダダー」9/13. バスの歌の「ハイ」を大声で言う。 9/14. 電車、新幹線を「アジー」と言う。「ブーブー、ブーブー」「テーテーテー」 9/15.「ポッポー」(汽車)「ヤッター」「ジュー」(ジュース)9/22.「ンブ」(おんぶ)
T児 (1才 6ヶ月)	6/11.「ポッポ」「イタ」「ミテ、ミテ」「ジジ」(祖父)「タイチャン」「ワンワン」 6/15.「ナーイ」「アッタ」「アッチー」(熱い) 6/18.「アジ」(新幹線、電車)「チュンチュン」 6/20.「ウメー」(美味しい)6/21.「ンニョ」（金魚)「ウン」「イヤ」「パパ」 6/25.「オイシイ」「アワアワ」(泡)「ブクブク」自分も「モー!」 6/29.「ピーピーピー」(バック歩き)「アッピ」(あっぷ叩く)

る表現である，両者の関係を明らかにするために4名のことばが出現し始めた月齢を探り，その月齢に出現した言葉をできるだけ抽出しまとめた.（表3）

4－3　うたの始まり以前の音楽的表現

うたのあらわれ方を明らかにするために，うたが生まれる以前の4名の姿から身体表現など音楽的な表現と思われる事例をできるだけさかのぼって抽出し結果をまとめた.（表4）

4－4　うたのあらわれ方

うたの始まり以前の音楽的表現から、うたが生まれる時，うたい始めとは何かを分析検討して，4名のうたい始めた月齢を探り，うたの出現状況をまとめた.（表5）

4－5　結果

4名の，ことばの獲得及びうたの始まりの出現年齢をまとめた.（表6）

4－6　考察

(表6)の通り，ことばの獲得において，E児とR児では10ヶ月間の開きが観察された.

ことばの広がりには，固有の速度と固有の広がりがあり，個々の資質に加えて，子どもをめぐる周囲の環境的

表4　うたの始まり以前の音楽的表現

対象児	うたの始まり以前の音楽的表現
E児 9～15 ヶ月	(9 ヶ月)「キャー、アタタタ～ター」 声の高さを変化させて楽しんでいる。音の出るオモチャを振って、ガチャガチャ音を出しながら頭も振る。カチンコをカチカチ鳴らす。音の出るオモチャを好む傾向がある。家でも音やメロディの出るオモチャ、母の歌が好きで、両手を広げ腕を上下させて踊る仕草をする。 (10 ヶ月)音楽の出るオモチャのメロディが流れると手を叩く。 (1 才) 8/24. 盆踊りのレコードがかかると、膝を上下に揺らしリズムを取る。 (1 才 1 ヶ月)9/14. 歌に合わせて足を屈伸させたり頭を振ったりして音楽を楽しむ。TV の「お母さんと一緒」で手遊びやダンスをすると、とても喜んで反応する。 (1 才 2 ヶ月)9/28. アイアイの歌を歌っていたら、「アイアイ」と反復した。「ご機嫌いかが」の歌に、お辞儀をしたり手を上げたりして、スイングする。 10/5. 保育士の即興的な歌に合わせて身体を大きく揺らしハモニカを吹きながら歩く。10/7. 首から下げる太鼓を自分で首にかけて、打ち鳴らす。 (1 才 3 ヶ月)11/16. キーボードを出してきて弾きながら「アーイアイ」と歌っている。(家庭)(筆者が直接聞いていないのでうたの始まりとはしない)
Y児 20～ 21 ヶ月	(1 才 8 ヶ月)4/7. (3日目)筆者が歌うとジーと見つめ、頭を振ったりスイングしたりする。4/8. (4日目)CD音楽が聞こえてくると、自分から幼児室に行き曲に合わせて踊る。 風呂で、母と兄と3人で「大型バス」や「お弁当箱の歌」を振りを付けて踊る。4/20. バスの歌を歌うと、手を打って拍子を取る。 (1 才 9 ヶ月)5/20. 食事中にお茶で「ブーー」と音を出し合って遊ぶ。
R児 18～ 20 ヶ月	(1 才 6 ヶ月)4/20. 「大型バス」を歌うと、スイングした　り拍手したりする。 4/22. 「テントウムシ」の歌など保育士が歌うと、直ぐににスイングが始まりリズムの乗りが良い。(1 才 7 ヶ月)5/14. 保育士が歌うと「ウーウー」もっと、と盛んに催促する。(1 才 8 ヶ月)6/11. 「アーイアイ」を真似て「アーアー」 6/18. ハモニカをブーブー吹く。太鼓をばちで交互にリズミカルに打つ。
T児 16～ 19 ヶ月	(1 才 4 ヶ月)4/10. 歌のページで「アイアイ、ぞーさん」が出ると、その度に立ち上がり、母の歌にあわせて足踏みをしたり、くるくる回ったりする。 4/13. 牛乳、みそ汁等の汁物で「ブクブク」音を出して遊ぶのが日課になる。 4/15. バスの歌を歌うと拍手してリズムを楽しむ。(1 才 5 ヶ月)5/17. 「さんぽ」の歌にあわせて歩く。5/19. 母が鼻歌を歌っていると「ンーンー」と優しい声でハミングする。(1 才 6 ヶ月) 6/13. 「だんご3兄弟」「金魚の歌」「お弁当の歌」に合わせ膝を屈伸、手を振り身体をくねくねさせて踊る。6/28. 太鼓、スズ、タンバリン、ハモニカ、フライパン等、音を出して喜ぶ。6/29. エビを食べていて「ビービエビー」と歌っている。「マーマ、マー」(おたまじゃくし)小声で歌っている (1 才 7 ヶ月)7/12. 「線路は続くよー」と筆者が歌うと車を走らせながら歌にあわせスイングし「ポッポー」 7/14. 人形を布団に寝かせ「ネーンネーン」と、トントンしながら歌う。7/16. 「バナナの親子」拍手を始めスイングしながら「パパ、パ～ナー」「きらきら～」に両手を上げキラキラしたり拍手したりする。

要因が影響しているといわれている.

また、ヒトが直立歩行を始め，手を使うようになったことが、大脳の発達と言葉の誕生を促したという説[1]や，直接関連しているとは言えないまでも，神経生理学的に見ると前言語野（ブローカ中枢）と，右手をつかさどる場所が隣り合って配置されており手を使うことと，ことばとの関連説[2]などがある。

正高信男は「言語の発現が，子どものそれ以前の音声発達の延長線上に生ずるものであることは、疑いえない事実だと思われる．ことばを話し始めることは、個体発

表5　うたのあらわれ方

対象児	うたの出現状況
E児 (1才4ヶ月) (1998.12/15)	**12/15**. 他児と「チョウチョ」の歌を一緒に歌っている。 「チョーチョ、チョーチョ」 12/21. T児をトントンしながら「アーイアイ、アーイアイ」と歌う。
Y児 (1才10ヶ月) (1999.6/5)	**6/5**. 歌が出るようになる。特にアイアイの歌は「アーイアイ」とリズムもあっている。ことばの難しい所は1語を長く伸ばしたり語尾を長く伸ばして歌っている。 6/23. 「トトロ」のオープニングソング「だんご3兄弟」の曲を記憶しているようで、たどたどしいが母親と一緒に歌う。 6/30. 【事例1】「アイアイアイ、アイアイアーイ、アイ～アーイ」 6/30. 【事例2】「スイカ、ダンゴ、スイカースイカー、スイカ、スイスイスイカー～スイカ、ダンゴ、ダンゴ、スイカー～スイカ」両足をバタバタさせて、リズミカルに繰り返す。
R児 (1才9ヶ月) (1999.6/30)	**6/30**. 【事例1】「アーイアイ、アーイアイ、アーア、アーイ」人形に布団を掛けトントンしながら歌う。 6/30. 「ネーンネー」と人形を寝かせながら歌う。 7/12. 「線路は続くよー」と歌うと「ポッポー」と合いの手を入れる。 7/15. 「ユルレイホー」の歌に「ホー」と歌う。
T児 (1才8ヶ月) (1999.9/2)	**9/2**. 人形を布団に寝かせ「ネーンネーン」とトントンしながら歌う。 9/1. CDのバナナの曲に、Y児のバナナの絵のエプロンを出して「パパバーバー」「バッバッバッバ、バッバ」「バッバッバ」

達の過程での突発的な飛躍のイベントではないのである。子どもはランダムな音の産出から，伝達への目的を明確に思考する発声へとしだいに発達をとげていく。」[3)]

さらに「母親の子どもへの発話行動の単位時間あたりの総累積時間を比較してみたところ，音声発達のテンポの早かったグループほうが，より多くの呼びかけを受けていることが判明した．身近な周囲の大人からの聴覚経験の多寡が，音声発達とかかわっていることを示しているのかもしれない．いずれにせよ私自身は，個体発達は，常に環境要因からの刺激によって柔軟に変化しうるのではないかと思っている。」[4)]と述べている．

筆者が今まで多くの子供たちと接してきた中には，精神面や情緒面は豊かであったとても，2歳を過ぎて1語文を少し話し始めたという子に出会っている．

R児の場合，ナースリー入室までは，両親と姉との生活が中心で、児の気持ちを周囲がくみ取り、ほとんどことばを媒体とする会話を必要としない生活であったこと，

入室前は戸外遊びの経験もあまりなく，生活範囲が狭く，食事も介助してもらっていたので、自分から積極的に食べることがあまりなかった．(左手先行である)

表6　ことばの獲得及びうたの始まり

対象児	E児	Y児	R児	T児
ことばの獲得	1才1ヶ月	1才8ヶ月	1才11ヶ月	1才6ヶ月
うたい始め	1才4ヶ月	1才10ヶ月	1才9ヶ月	1才8ヶ月

これらをことばの出現が遅かった直接の要因とみなすのは危険であるがしかし，かんせつよういんとはいえるのではないだろうか．R児のみことばよりもうたの始まりが2ヶ月先行している．乳児期から姉が通園する車に同乗し，車中で歌のCDやTVの「お母さんと一緒」などを見聞きしていたことや，4月からは本園に通園するようになり自宅との距離が伸び，音楽に触れる時間が一層長くなったことが，ことばよりも歌の出現を早めた要因の

ひとつではないかと推察される.

Y児は，出現していることばの数が少ないが，3人兄弟の2子目であり，4月入室した時には，弟が生後2ヶ月であった状況などから，家庭で母親とゆったりとしたかかわりの中で，ことばのやりとりが少なかったと推測される．また，名詞よりも「ヤダー」「オカワリ」など自分の気持ちを伝えることばが早くから出現している状況からも，ことばがいかに生活と密着しているか，児をめぐる周囲との関連が深いことが伺える.

ことばの獲得において10ヶ月間の開きが観察されたが，子ども達の遊びやかかわりを見ていると，ことばは発しなくても表情や目，アクションなど全身がことばとなって雄弁に語り，ことばでは十分に説明しきれない相手の心の内まで，全身で聴いて読みとっている.

ことばの獲得が早く，語彙が豊富で上手に話ができることが，子どもの言葉が豊かであるとは必ずしも言えないのではないだろうか．友だちと生活や遊びを共にする中で触れ合い，経験や体験を通し感じ合うことがことばを話す，しゃべることの第一歩であると思う。

うたの始まりにおいては，E児が1番早く1才4ヶ月に出現し，他の3名はT児の1才8ヶ月に始まり順に出現している．E児は，うたの始まり以前の音楽的表現が9ヶ月より観察されており「音の出るオモチャや，母の歌が好きで両手を広げ腕を上下させて，踊る仕草をする」のように，早くから，母親がE児の様子に気づき，音楽的な刺激をE児の要求に応じて与え一緒に楽しんでる.

T児も，3ヶ月でナースリーに入室しており母親の歌いかけも多く，音楽的な環境は豊かであったが，うたの出現は1才8ヶ月である．このように，うたの出現においても，個々の持っている資質による個人差や，児をとりまく環境的要因などが，それらの出現に関与していると考えられる.

5．遊びや生活場面における音楽的表現

5－1　R児がうたい始めた日【事例1】

人形に布団を掛けて寝かせるごっこ遊びの場面

E児がゾウに布団を掛けながら遊び始め、R児とY児が加わり10分近く遊びが展開された．(表7)

R児は常にE児の動きを追視し，行動やことばを真似ている．開始後2分にE児がゾウに布団を掛け「アーイアイ～」とうたいだしたので，筆者も一緒に歌うと23秒後にR児が「アーア，アーア」と小さな声で呼吸を整えながら唱え出すが，発声が不明瞭である．その後，みずからE児がしていたように人形に布団を掛けて「アーイアイ，アーイアイアーア，アーイ」とうたっている．今回は呼吸もあって，発声やリズムが聞き取りやすくなっている．E児，Y児との遊びが続き、7分30秒後にE児がR児をトントンしながら「ネーンネン、ネンネンネン」

表7　【事例1】1999年6月30日　午前(保育室)

タイム	対象児	子どもの姿	他者の様子
分：秒	(E,Y,R)		
0:22	E(1.11) (月齢)	ゾウに布団を掛けたり直したりしながらトントンする	
1:00	Y(1.10)	テーブルの所に行き、プラスチックキューブの入れ替え遊びを始める	
1:40	E	「ねんねした」と言う ゾウの隣に寝ころび布団を掛けて両手で腹部をトントンする	Y)遊びながら時々Eに視線を送っている
2:00	E	ゾウにも布団を掛けてトントンしながら「ユーリカゴー、アイアイアーイ(2回)」「アイアイーアイ、アーイアイ、アイアイ、オオオオ」と歌う	R)ソファーの後ろを通り抜けフロアーを駆けながら E.R 児の遊びを追視する
2:05	R(1.9)	Yの所に行き、キューブで遊び始める	
2:15	E	「アーハハハ、アーハハハ」笑いながら跳ねている	R)Y のキューブを使い始める
2:18	Y	「ヤーダ！ヤーダ！ヤーダ！！」と言ってRの手を払う	

2:20	E	「ユーリカゴーノー」と歌いながら、Y の方を見る「アイアイ、アーイアイ～」	落ちたキューブを拾う 筆者）R を手伝いながら、「アーイアイ、アーイアイ～」と歌う
2:23	＊R	小さな声で、「アーア、アーア」と唱える（筆者の歌にあわせるように）	
2:40	E	人形の所に行き「アーイアイ」と歌いながら大判の布団を掛ける	R)E の遊びを見ている
2:50		ネコに布団を掛けながら「アイアイ、アーイ」と歌いトントンする	
3:18	＊R	E が掛けた人形の所に行き、布団をかけ直しトントンしながら「アーイアイ、アーイアイ、アーア、アーイ」と唄う	E）クッションの所に行き枕にして仰向けに寝ころびトントンする
3:35 - 45			
3:48		E の寝ていた所に行き、クッションを枕にしてうつ伏せになる（E を目で追う）	E）起きあがり布団を持って R のそばに立つ
4:8	E	布団を持って〔E ちゃんのお布団」と言いながら移動する	R）立ち上がりクッションを持って E を追う
4:25	R	前の所に戻り、クッションを枕にしてうつ伏せになる	
4:31	E	R の所に行き持っていた布団を掛けてトントンする	
4:32	Y	R の所に行き「どーいて、どーいて」と布団をはがし取る	E）トントンを止めて Y と R の様子を見守る
4:48	R	Y に取られた布団を引っ張って取り返す	筆者）「こっちにお布団沢山あるね」
4:55	Y	立ち上がり周囲を見て 1 枚選び、寝ころぶ場所を探す	R）再び寝ころぶ
5:25	Y	横向きに寝ころび R を見ている	＊〈5:26 ～ 6:50〉省略
6:51	Y	「オハヨー（3 回）」と笑いながら布団を持って起きあがり E と R の周りを「アイ！アイ！アイ！アイ！」と駆け出す	E）R の上に布団を掛けて「アーイアイ、おさるさーんだよー」と、トントンを続けながら歌っている
7:00 -24	Y	「アイアイアイアイアイ、アイアイアイアイアイアーイアイ」唱いながら駆ける	
7:30	E	R に布団を掛け終わり「ネンネーン、ネン！ネン！ネン！」「ネンネーネン！ネン！ネンネー」とトントンする	Y）唱いながら部屋を出ていく
7:53	E	〔E ちゃんも寝よう〕とうつ伏せに寝て隣にウサギを置き、布団を掛けて「ネンネネンネ、ネンネ・・・」とトントンする	R）起きあがる Y）戻ってくる
8:11	＊R	人形を抱き上げ部屋の隅に行き人形を寝かせ「ネーンネー」と唱いトントンする	
		「ネンネー」と自分で布団に寝ころぶ	Y)E の声にすぐに起きあがり「アッカンベー！」と駆け出す
	Y	「アッカンベー！」と起きあがり「アッカンベー！」と駆け出す	
9:00	E		

と歌って寝かし，その後もE児が「ネーンネン」と繰り返し歌っていると，R児も部屋の隅に人形を寝かせてトントンしながら，E児が歌ってから18秒後に再び真似て「ネンネー」とうたっている．E児が繰り返し歌を口ずさんでいるのを聴きながら，一緒に遊ぶうちに自然に歌がでてきた例である．

Y児は別のあそびを続けながら，E児とR児の様子を追視しているが4分32秒後「オハヨー！」と3回唱え駆け出し加わっている．人形を寝かしつけるあそびが，Y児の参加によって動きのある遊びに変化してくる．その後すぐに「アイアイ・・・」とうたい出すが，駆ける行為に弾みをつけるかけ声のようなうたい方である．
笑いながら2人の周りを4周もしている．

開始後9分E児が「アッカンベー！」と起きあがりY児が言い返して駆けだし別の遊びへと移っていった．

＊Y児も同月当初にうたい始めている．

5－2　オヤツの場面【事例2】

午睡明け，4人がテーブルにつきオヤツを食べ始めたときの様子．（表8）

筆者がスイカの種を取っているときも，床を踏みならしながら待っている．黙々とスイカを食べ終えた後，Y児の大好きなスイカに対する思いが「だんご3兄弟」のダンゴをスイカに置き換えたうたを生み出した例である．スイカという3文字の言葉に抑揚を付けてリズミカルに繰り返している．はじめはテレながら小さな声で唱えだしたが，繰り返すうちにだんだんリズムに乗ってきて，両足で床を踏みならし出すと，対面していたT児が，開始後1分16秒に両手を上げて椅子に座ったままピョンピョン跳ねるという動きでY児とコミュニケーションを交わし，Y児もT児の姿を見て笑いながら唱え続け，同じように椅子に座ったまま跳ねて一緒に楽しんでいる．

5－3　駆け回る遊び【事例3】

フロアーをくるくる駆け回るあそびは，4月から毎日のように，バックを提げたり，乗り物に乗ったり，押したり，引き玩具を引っ張ったりなど繰り返しパターンを変えて楽しんでいる．この時も、E児、R児、T児が両手をヒラヒラさせて走り出し、約5分間続いた。（表9）

E児のユーモラスでリズミカルな唱えことばがR児やT児を巻き込み，声を出しながら駆け回ることを繰り返している．この間，E児は「アッチポッポー」を16回も

表8　【事例2】1999年6月30日　午後(保育室)

タイム	対象児	子どもの姿	他者の様子
0:15	E,Y,R,T	「スイカ！スイカ！ダンゴ！ダンゴ！」	筆者）「あれーすいかの歌だね、スイカ！スイカ！だって」（同じ調子で歌う）
	Y(1.10)	（少しテレながら唄い出す）	
	Y	「スイカ！ダンゴ！」	
0:28	E(1.11)	「スイカ！ダンゴ！ダンゴ！」（すぐに真似る）	
0:30	Y	「スイカ！（9回）ダンゴ！スイカー」（テレがあるのか、床に足を擦り付けている）	E、R、T）笑いながらYを見ている
0:44	Y	「スイカ！（7回）フンフン、ダンゴ！ダンゴ！スイカ！」（途中から両足で床をバタバタ踏みならし、大きな声でおどけながら唱う）	
1:16	T(1.6)	対面していたTが、笑いながら、両手を上げて、椅子に座ったまま、リズムに合わせて弾みをつけてピョンピョン跳ねる。	2:20・Y）跳ねるTを笑いながら見て「スイカ、スイカ」と唄っている
1:59		筆者が、スイカのお代わりを聞きに行き、ないことを知らせる	3:09・R）「ナーイ」
3:22	Y	「スイカ！（5回）ダンゴ、ダンゴ、スイカ！」大きな声で椅子に座ったままドンドン跳ねながら唱う	T）Yと一緒になって笑いながら跳ねる R）YとTを見て笑う
	Y	「ヤダー！」	筆者）ないことを再び告げる
3:46	Y	「スイカッ！スイカッ！スイカッ！」	

表9 【事例3】1999年8月23日　午前(保育室)

タイム	対象児	子どもの姿	他者の様子
0:22	(E,R,T)	両手を上下にヒラヒラさせながら「キャーキャー」歓声をあげフロアーを駆ける	
	E、R、T	(幼児メンバー3人が紙の棒を持って駆け抜けていく)	
0:51			
1:00	R(1:10)	幼児の姿を見た直後に「ダーダーダー！」と叫ぶ	
1:16	E(2:00)	ソファーに乗りかかり両足でピョンピョン蹴る	T) Eを見ている
1:20	R	「ダッダッダー!(4回)」左手人差し指を上げ、つま先で跳ねるように1周する	
1:25	E	「ア、シュポッポー」と駆け出す	T) Eと一緒に駆け出す
1:29	E	つまずいて転ぶ　(すぐに立ち上がる)	筆者)「大丈夫ですか」
2:00	E	ピョンピョン跳ね「アッチポッポー、アッチポッポー(6回)」唱いながら駆ける(3周)	
2:10	R	E、Tの後について「ポッポッポッポー」と唱いながら駆け出す	
2:18	E	ソファーに飛び込む、すぐに立って「アッチポッポー(4回)」と唱いながら駆ける(2周)	
2:35	E	ソファーに飛び込む	
2:40	R	「ポッポッポッポッポー」と唱い駆ける	E)「アッチポッポー(2回)」と唱い駆ける
2:49	R	「ポッポッポッポッポー(5回)」唱いながら駆ける	E) ソファーに飛び込む
	E	「アッチポッポー(2回)」と駆け出すが1周目で転ぶ(すぐに立って駆ける)	
		「アッチポッポー(2回)」3周目に転ぶ(再度立ち上がり駆け出す)「アッチポッポー(5回)」唱いながら3周する	T) Eの後について駆ける(8周)
3:48	R	E、Tの後について駆けながら「ポッポッポー、ポッポッポー」と唱う	
3:55	E	ソファーに倒れ込んで顔を打ち付けながら「アガー」と言う	R) すぐにEについてソファーに倒れ込み「アーガアーガ」と真似る
	E	「アッチポッポー(3回)」と駆け出す	
	T(1:8)	E、について駆ける(2周)	
4:40	E	途中で倒れそのまま仰向けに寝ころびRを見てケラケラ笑いソファーに飛び込む	R)「アガーアガーアガー(2回)」繰り返す
4:48	T	E、Rに加わり「アガー！」を繰り返す	E、R、T) 笑い合う

表10 【事例4】1999年9月3日　午後(保育室)

タイム	対象児	子どもの姿	他者の様子
0	E,R E(2.1)	ソファーに寝ころんでいたが、起きあがって鏡の所に行く	
0:18		ノブの中央を押して鏡に笑いかけながら「ピンポーン」「ごめんください」	R)Eに気付き加わる
0:25	R(1.11)	同じようにノブを押し鏡を覗きながら「アギ、アギー」「バアーバアー」	
0:28	E	Rを押しのけて、ノブを押し「ピンポーン」「ごめんください」	R)フロアーをくるりと回って戻る
0:32	R	「ガーガーガ、ガ、ガ、ガ、ガ、ガー」	E) Rの為に場所をゆずる
0:45	E	Rをどかし「ピンホーン」 Eすぐに離れる	E) Rをほほえんで見守る
0:48	R	ドアノブを押し「ガガラー」	
0:52	E	ドアノブを押し「ごめんくださーい」	
0:57	R	「ガガガガエー」	
1:03	E	「ごめんください」「ごめんくださーい」	
1:10	R	「ガガガガガガガーガーダー」	E)ソファーに戻る途中で転び立ち上がって戻る
- 21	R	Eが戻るまで同じ調子で声を出している	
1:22	E	ノブを押し「ごめんくださーい」	
1:28	R	ノブを押し「ガガガガガーガー」	
	E	「ごめんくださーい」	E)ソファーに駆け戻る
1:39	R	「ガガガガガガー」	
|	E	「ごめんくださーい」	
2:00	R	「ダーダー」と言って鏡の自分に笑いかけながら見ている	筆者)「ウンチ出た人」筆者の声で中断する
- 28			

唱えフロアーを16周している.

T児もE児の後について10周も駆け共に楽しんでいた. E児は駆けながら何度も転ぶが, まるで憑かれたように駆け続けている.

R児は始め「ダッダッダー」と言っていたがE児が「アッチポッポー」とうたうのを聴いて, 2分10秒の時に「ポッポッポー」と言い変えている.

5－4　鏡をめぐってのやりとり【事例4】

ソファーに寝ころんでいたE児が起き上がり, 鏡の前に立ちドアノブの中央を押して鏡に笑い駆けながら, 「ピンホーン」「ごめんください」とリズミカルに唱えると, E児の様子を見ていたR児が, E児の動作や言葉を瞬時に感じ取り, 動作を真似し「アギーアギー」「バアーバアー」と唱え2人の遊びが展開された. (表10)

R児はこの時、一語文程度のことばを話し始めたばかりであったが、擬音風の声をリズミカルに唱えて、E児の遊びに加わっている. E児は始め, R児を押しのけるようにして行っていたが, 4回目から場所を譲り, R児が言い終わるのを見届けてから自分の行為に移っている.

また, R児もE児が途中で転んでしまった時に声を出し続けて待っているが, 遊びを継続させようとするR児の意図が伺える.

5－5　考察

【事例1】はR児が「アーイアイ」とうたい始めた日(1999年6月30日・1才9ヶ月4日)のことである. E児, Y児も同様に「アイアイ」の歌が初期に出現している. E児(1998年12月21日・1才4ヶ月27日)Y児(1999年6月5日・1才10ヶ月2日)である. 3人ともトントン寝かせる動作をしながら「アーイアイ」とうたっている.

ことばの反復が声の抑揚, 高さ, 強さ, 長さ, 音色などの韻律的側面を浮上させ, 歌が生まれやすいと言われているが, 「アイアイ」の歌がその要素を十分に満たしていること, 「あ」を発音する口形をあまり変えずに次の音を発音できること, また, 午睡の時に子守歌として

筆者が繰り返し歌っていたので，この歌を耳にする機会が多いことも要因になっていると考えられる．

11月頃より，うたやことばがたくさん出るようになり，ことばの反復が韻を踏みリズミカルなうたや唱えことばが頻繁に出るようになった．

【事例２】で，うたい始めたばかりのＹ児が「ダンゴ」を「スイカ」に変えて即興的にうたいだしている．流行している耳慣れた曲に乗せやすかったのだと思われるが，こども達の感度の良さに驚かされた事例である．

同じ調子で繰り返すことで，自分が感じている快感を他児と共有し，繰り返すことで，長時間その心地よさを共有しようとしている．自分が快いと感じている行為を，仲間が一緒に楽しんでくれるということは，心地よさを増幅させる．

リズムを身体で表現し，通じ合うことで楽しさを共有し，ことばがなくても仲間とコミュニケーションを交わしあっている．

このような姿から音楽にのり，リズミカルな動作で同調し，響きあうことは子ども達にとって，コミュニケーションの手段であると考えられる．

【事例３】では，Ｅ児が軽快なことばを唱えながら，駆けだしたことがきっかけとなり，たちまち他の子にもリズムが伝わり，同じ調子で繰り返すうちに，三者の間に呼応関係が生じ，行動を伴ったリズミカルな音声を通して，お互いを結びつけ通じ合い，より楽しいうたや動きのイメージを作っている．

【事例４】は，Ｅ児とＲ児との遊び場面であるが，Ｒ児はことばの出始めであるにもかかわらず，自分なりの表現方法で唱え，遊びに加わっている．

このように，生活や遊びを共有し，仲間とのかかわりの中で，生活共感し合っている子ども達は，お互いの心の響きを，肌で感じ，目で聴いて，言葉がなくても自分たちの意志を十分に伝え合い，感じ取ることができるようである．

６．考　察

本論では，ことばとうたとの関係を観察してきたが，４名の歌い始めの時期と，他の領域との関連について検討してみると，子どもの表現は非常に総合的であることがわかった．特に，運動面や情緒面とうたいはじめには様々な関係があることがわかった．

動きとうたい始めに関して４名に共通しているものは次の３点である．

① ぐるぐる駆け回ることを好んでする．

② 高い所によじ登ったり段差のあるところを歩く．

③ サンダルやスリッパを履いて歩き回る．

うたい始めと情緒面との関係においては，自我の出現という共通点が見られた．

① 仲間との遊びの時にしっかりと自己主張する。(Y,R,T)

② 自我がはっきりしてきて納得できないと怒る．(E)

これらは１歳児の特徴的な姿であるが、４名共にうたい始めた月に出現しているのは興味深い．

子ども達を見ていると，じっと見る，追視する姿や，模倣して繰り返す姿がとても多い，他の子がうたっている姿を見たり，模倣を繰り返すことによってリズミカルに身体を動かして表現することを楽しんでいる．

うたが出現し数ヶ月する頃より，リズミカルで楽しい唱えことばが頻繁に出るようになった．

子ども達は仲間との遊びの中で，思い浮かんだユーモラスなことばを唱え言葉のように繰り返して，楽しい気分を一層盛り上げたり，ひょうきんな動作をつけてリズミカルなことばを繰り返して楽しんでいる．

たとえば，「サックリコロコロ，サックリコロコロ2回ザックリカラカラ2回ザックリコロコロ２回」，「グリグリグリーノクッキー」，「よいしょ，よいしょ，よいしょの，よいちょ」，「ポーヨポーヨパーン，ポーヨポーヨパーン2回」「よっこいだしょ，よっこいだっしょ」，「ニカニカニカ，カニノニカ，コレ」などである．

ことばの繰り返しによって抑揚やリズムが生まれ韻律的になっている．子ども達は，ことば遊びのように語尾を変えたり，次々新しい言葉を生み出して楽しんでいる．

このように，遊びの中で生まれたうたには，保育士が歌うのを聴いて一緒に歌うときには得られない，広がりがあるようだ．これらのことから，うたやことばの獲得初期にある子ども達の，生活や遊びの中から生まれてくる，音楽的な表現（うた）を豊かに育てていくことが必要であることを確認した．

７．おわりに

従来の研究成果において，子ども達にみられることばやうたの始まりは，身体・器官の発育や，心理・情緒面の発達に見られる個人差に加えて，子ども達をとりまく

環境的要因が，これらの出現に影響を与えていると考えられている．

集団保育の場においては，保育士の豊かな音楽的働きかけが必要であることは，いうまでもないことだが，それ以上に，日々の保育の中で，生活（育ち）を共にする子供同士の「かかわり（相互作用）」をとうして，子ども達が経験しうる，好奇心・探索心・感動などを蓄えていくことが，ことばを育み，うたを生み出すうえで重要な要因であると考える．したがって，子ども達の自主性や感性をじっくりあたため育つのを待ち，見守る保育士の配慮が必要であろう．

保育士にとって，子ども達とともに共感しあい，うたを楽しみ，音を感じる感性を磨くことが不可欠であると考える．

事例に登場した4名は今年3歳になる．ナースリーでは年長グループになって，4人の関係も一段と深まり，自由に会話を楽しみ、歌も「キングコング」をアクションを付けて歌っている．今年もすいかが出ると，スイカコールが始まり，先日中秋の名月の団子作りの時には，「まんまるお月さまー」など即興の歌を口ずさんで楽しんでいた．

今後は，乳児の音声発達，特に泣き声からクーイング，喃語，反復喃語が現れ，音節の配列された複音節喃語が発声されるようになり初語が出る過程において，他児とのかかわりの中に見られる，乳児同士の音声相互作用やうたが生まれる以前の音楽的表現について観察研究を進めていきたい．

謝　辞

本研究にともに取り組み，ご指導いただいた細田淳子先生に深く感謝いたします．

尚，本稿は第53回日本保育学会口頭発表(於広島大学)『ことばの獲得初期における音楽的表現(2)－あそびの中に見られるうたのはじまり－』論集 pp.134-5 2000に加筆したものである．

引用文献

1）汐見稔幸「ことばに探る心の不思議－子どもの育ちとことば」ひとなる書房 1996, p.173

2）同掲書1）p.173

3）正高信男「ことばの誕生論・行動学からみた言語起源」紀伊國屋書店　1991, p.147

4）　同掲書2）pp.148-149

参考文献

正高信男「0歳児がことばを獲得するとき」中央公論社 1993

正高信男「声が言葉に変わるとき」月間言語　No. 4 修館書店 1992

今井和子「ことばの中の子どもたち」童心社 1986

阿部明子他編著「保育内容・言葉の探求」相川書房 1997

竹下季子「心とことばの初期発達－霊長類の比較行動発達学」東京大学出版会 1999

小林春美「子どもたちの言語獲得」大修館書店 1998

藤田芙美子 日本保育学会第49回発表論文集 1996 pp.74-75

藤田芙美子 日本保育学会第51回発表論文集 1998 pp.320-321

松沢哲夫「チンパンジーの「言語」習得その歴史と現状」中央公論社 自然」8月号 1980, pp.52-62

〈注〉1　細田淳子，本学児童学科助教授

Summary

Environment is one of the most important factors for infant to acquire the ability of singing and speaking. Infants communicate and interact with one another through playing ,and in this circumstance, they naturally acquire the ability to sing and speak.

In our observation, nursery teachers can create a friendly atmosphere for infants' communication and interaction in the most natural way. Thus, those teachers are required to enjoy singing and share feeling of liveliness with infants, so that their ability of singing and speaking grow spontaneously.